

2025年10月

白井なおこ レポート VOL.28

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日:2025年10月25日
発行:日野・生活者ネットワーク 発行責任者:出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



喉元過ぎても、この夏の猛暑を忘れてはいけません。まさにあらゆる生命の危機を感じます。再エネ電気への切り替えやダンボールコンポストなど、一人ひとりができることに取り組もう!と呼びかけました。(9月23日)



ケアする人のケアを 日野市にケアラー支援条例をつくらう!

介護に疲れ、殺人や無理心中となる事件は8日に1件起きているというデータがあります。市はケアする人「ケアラー」への支援の重要性を認識しているとしながらも、具体策はまだざい弱と感じます。その根拠となるケアラー支援条例の制定を求め、再度質問に挑みました。

もう一つの質問では、学校給食の牛乳廃棄を減らす一つの方法として、選択制導入を提案しました。

休みたい時に休めるように

重症心身障がい者のご家族より、月に一度のショートステイの予約さえなかなか取れないという声があります。夜間もケアがあるため、睡眠も細切れ、たまには安心してゆっくり眠りたいということです。無理ありません。市としては、**市立病院での受け入れ拡充**を相談中とのこと、これは一歩前進です。

在宅介護の要である訪問介護は、基本報酬の引き下げも影響し、多くの事業所は人出不足で苦境にあります。ここが揺らげば、ひとり暮らしの方は自宅で暮らすことができません。また、ケアラーの負担はさらに増します。事業所では構造的に受けづらいといわれる**生活援助のニーズ**にも対応できるよう、早急に人材確保の制度構築を求めました。

自利利他という考え方

健康課が主催した「ケアする人を支える」セミナーで、講師の僧侶の方より「**自利をもって利他をなす**」という話を聞き、これぞケアラー支援の真髄だと思いました。つまり、自分が満たされていなければ、よいケアはできないということです。その考えを共有する

とともに、職員もまちや市民をケアする**ケアワーカー**である自覚を持つためにも、その核となる条例が必要だと訴えました。

副市長より、自身のケアの経験を交えた心のこもった答弁を得て、手ごたえを感じ取ることができました。

まだまだ道のりは遠いかもしれませんが、目指したい社会を真ん中に、地域共生社会の実現に向けて、取り組み続けます。



生活者ネットの仲間とともに訴えづづけています(写真は2022年)

ちりもつもれば8万本! 給食牛乳の廃棄をなくそう!

日野市では年換算で約8万本もの未開封の牛乳が廃棄されていると推計されています。食品ロスと児童生徒の残すことへの心理的負担の観点から、**選択制を導入している**自治体もあります。まずは子どもたち自身に考えてもらうこと、また**コップで分け合う方法**を広めるよう求めました。

